

16:50オープニング～17:00(10分)

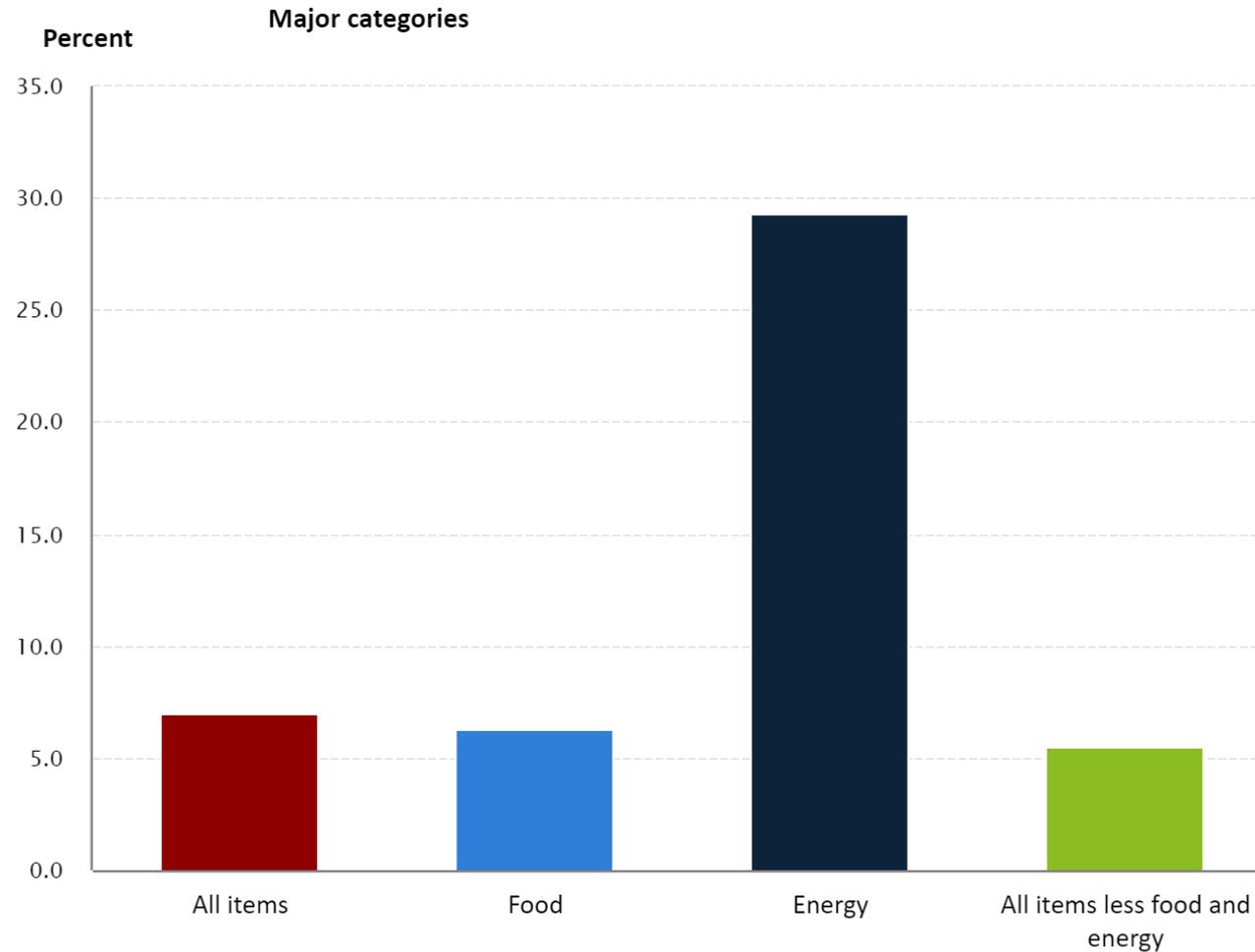
インフレは利上げで押さえられるのか？QTによるマーケットリスク

インフレ(CPI 7%上昇)の内訳を見てみよう

全体:7%、食品:6.3%、エネルギー:29%、食品・エネルギー除く:5.5%

12-month percentage change, Consumer Price Index, selected categories, December 2021, not seasonally adjusted

[Click on columns to drill down](#)



(出所:米国労働統計局より)

Source: U.S. Bureau of Labor Statistics.



CPI 7%上昇の内訳を見てみよう(項目別)

サプライチェーンの目詰まりによるモノの値段高騰に利上げは有効なのか？

12か月の変化率、消費者物価指数、選択したカテゴリ、2021年12月、季節調整なし

カテゴリー	2021年12月の12か月の変化率
全てのアイテム	7.0%
食べ物	6.3%
家での食事	6.5%
シリアルおよびベーカリー製品	4.8%
肉、鶏肉、魚、卵	12.5%
乳製品および関連製品	1.6%
果物と野菜	5.0%
ノンアルコール飲料および飲料材料	5.2%
家庭での他の食べ物	5.6%
家から離れた食べ物	6.0%
フルサービスの食事と軽食	6.6%
限定サービスの食事と軽食	8.0%
エネルギー	29.3%
エネルギー商品	48.9%
燃料油	41.0%
ガソリン(全タイプ)	49.6%
エネルギーサービス	10.4%
電気	6.3%
天然ガス(パイプ)	24.1%

食料とエネルギーを除いたすべてのアイテム	5.5%
食料およびエネルギー商品を差し引いた商品	10.7%
衣服	5.8%
新車	11.8%
中古車やトラック	37.3%
医療商品	0.4%
アルコール飲料	2.3%
タバコおよび喫煙製品	9.0%
サービス少ないエネルギーサービス	3.7%
シエルター	4.2%
主たる住居の家賃	3.3%
所有者の住宅の同等の家賃	3.8%
医療サービス	2.5%
医師のサービス	4.3%
病院サービス	3.3%
輸送サービス	4.2%
自動車のメンテナンスと修理	4.8%
自動車保険	4.1%
航空運賃	1.4%

(出所: 米国労働統計局より) <https://stats.bls.gov/charts/consumer-price-index/consumer-price-index-by-category.htm#>

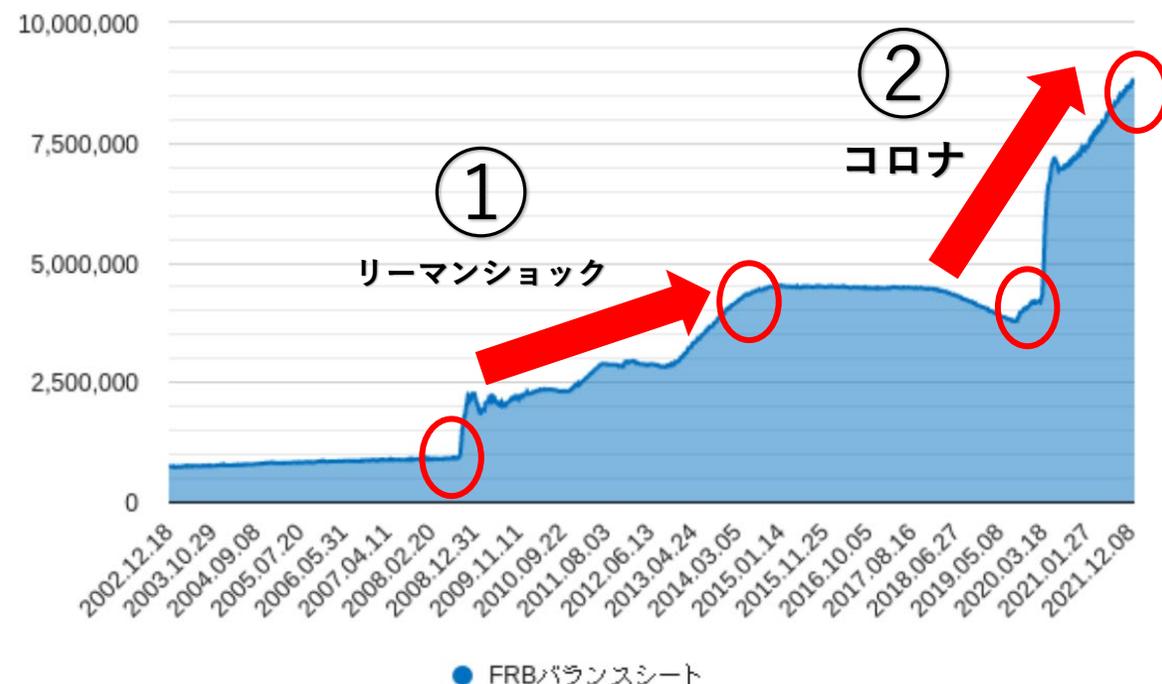
FRBのメッセージ

量的緩和の金額は正しかったのか？政治問題化？



FRBのバランスシート

コロナ: 4兆4000億ドル→8兆6000億ドルに
リーマンショック: 1兆米ドル以下→4兆5000億ドルに



CPIは7%台を記録。39年半ぶり以来の水準

ガソリン価格が58.1%上昇し、食料品は家庭用、外食ともに伸びが高い



FRBの行き過ぎた金融緩和が株式の膨張を生み出し、世界の株式時価総額の年間(21年)増加額は約18兆ドル(約2000兆円)と過去最大。インフレ上昇に賃金上昇が追い付かずこの前提が変わりつつある。

(出所: 各種報道より作成)

リーマンショック後の米国の金融引き締め3段階と株価(S & P500)の動き



- 利上げ開始から2年経過してバランスシート縮小したにも関わらず、2018年10月～12月は株価約2割下落
- 今回は利上げ後、すぐにバランスシート縮小の可能・リーマンショック後より当然規模も大きくなる可能性

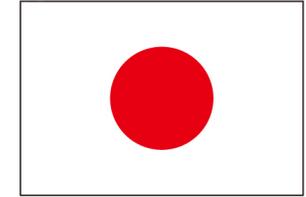


米連邦公開市場委員会 (FOMC) 25—26日開催予定 今週のFOMCの「3つの注目ポイント」

- ① 22年3月に利上げ「何%」 0.25%ではなく「0.5%」？
- ② 22年の利上げは何回？ 「3回・4回」利上げ？
- ③ FRBのバランスシート縮小についてどれくらいの言及？

16:50オープニング～17:00(10分)

坂本さん 日本の利上げは？



- 「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」で
2022年度と23年度の消費者物価の上昇率見通しを上方修正
(22年 従来の0.9%から1.1%へと引き上げた)
- 1月18日 日銀の黒田総裁は記者会見で
将来の利上げに向けた議論を「全くしていない」と述べた
- 日経新聞完全否定でも消えぬ「タカ派転向」の疑念

馬淵視点：エネルギー価格が一巡すれば、日本の物価は当面2%超になりそうにない。
利上げの議論がなされないのも当然に考えられるが、なぜ消えぬ「タカ派転向」の論調が存在するのか？
債券市場関係者の願望・・・????

■ 17:27メインコーナー「しゃべくりカブカブ」～17:47(20分)

- ・先週の成長株のおさらい
- ・今はセクター投資か
 - ⇒セクター投資で攻めるべき理由
 - ⇒有望セクターと銘柄

グロース売りはいつまで続く？ 転換時期

- FRBのバランスシート縮小に備えて、バリュー株のサイクル
- オイルマネーの流入(今年の儲けから株式に資金流入)
- 2月頃までは上値が重い展開
- 岸田政権の「公共投資」の政策が4月頃？
- 7月参議院選挙にかけて盛り返す可能、しかし……

売上高や経常利益などが年々大きく増加今後もさらに増加していくと予測×強烈IR×高値更新
<3482> ロードスターキャピタル マザーズ ROE：34.8%
時価総額 286億円 PER：6.4倍 PBR：2.13倍



事業内容

コーポレートファンディング(不動産投資)86%、(不動産賃貸)12%
 クラウドファンディング 2% 「OwnersBook」

【ポイント】

- ①21年10月29日 3Q決算
 21年12月期第3四半期累計(1-9月)の連結経常利益は前年同期比27.3%増の45億円に伸び、通期計画の49.9億円に対する進捗率は90.1%。
- ②21年12月15日 21年通期業績上方修正
 21年12月期の連結経常利益を従来予想の49.9億円→52.9億円(前期は41.6億円)に5.9%上方修正
 期末一括配当を従来計画の29円→32円(前期は24.5円)に増額修正した。
- ③22年1月6日 22年通期見通し
 22年12月期連結業績予想について、売上高185億円(前期予想比3.4%増)、営業利益71.5億円
 (同27.9%増)、純利益44億円(同28.2%増)と開示。
- ④22年1月11日 「プライム市場」への選択申請
- ⑤22年1月12日 自社株買い
 上限150万株(15億円)の自社株買いを実施すると発表

☆馬淵視点☆

- ・9期連続増収増益、営業利益率30%超え
- ・営業利益20%成長
- ・これまで割安株として放置

【通期】

決算期	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	経常利益 (前期比)	当期利益 (前期比)	EPS	BPS
Dec-15	2,992 —%	728 —%	688 —%	442 —%	27.0円	98.2円
Dec-16	4,659 55.70%	750 3.00%	703 2.20%	468 5.90%	28.6円	132.8円
Dec-17	8,794 88.80%	1,364 81.90%	1,189 69.10%	794 69.70%	48.5円	277.8円
Dec-18	9,670 10.00%	2,392 75.40%	2,117 78.00%	1,359 71.20%	83.0円	358.4円
Dec-19	15,116 56.30%	3,653 52.70%	3,272 54.60%	2,077 52.80%	126.8円	476.7円
Dec-20	16,979 12.30%	4,484 22.70%	4,168 27.40%	2,700 30.00%	164.9円	469.0円
2021/12	17,910 5.50%	5,594 24.80%	5,291 26.90%	3,439 27.40%	210.0円	—円

売上高や経常利益などが年々大きく増加今後もさらに増加していくと予測×20%以上成長×自動車

<7676>グッドスピード マザーズ ROE：24.7%

時価総額 62.8億円 PER：13.7倍 PBR：3.50倍

自動車



事業内容
 自動車販売関連93%、附帯サービス関連（保険など）7%
 東海地方を中心にSUV、輸入車を中心に中古車販売や買取
 レンタカー事業も。
 次回決算 2022/2/14

☆馬淵視点☆

- ・ SUV特化した強み
- ・ 今、SUV人気が高い。
 例えば、ソニーの電気自動車「VISION-S」にSUV投入
 トヨタのヤリスクロスの人気
 新型SUV「カローラクロス」が絶好調。昨年11月に
 7300台を登録など。
- ・ 売上高30%成長
- ・ 割安株として放置



【通期】

決算期	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	経常利益 (前期比)	当期利益 (前期比)	EPS	BPS
Sep-17	20,253 -%	91 -%	93 -%	76 -%	24.3円	112.9円
Sep-18	22,751 12.30%	200 119.80%	149 60.20%	91 19.70%	29.1円	126.4円
Sep-19	32,393 42.40%	405 102.50%	318 113.40%	193 112.10%	61.7円	446.6円
Sep-20	33,704 4.00%	124 -69.40%	3 -99.10%	-24 -112.40%	-円	411.7円
Sep-21	44,778 32.90%	608 390.30%	445 14733.30%	381 1687.50%	121.9円	574.6円
2022/09予	60,000 34.00%	1,000 64.50%	770 73.00%	460 20.70%	147.2円	-円

■ 17:27メインコーナー「しゃべくりカブカブ」～17:47(20分)

- ・先週の成長株のおさらい
- ・今はセクター投資か
 - ⇒セクター投資で攻めるべき理由
 - ⇒有望セクターと銘柄

あらためて、セクター投資の定義を坂本さんとすり合わせ

■東証33業種だけでなく、もう少し分類化してもよい？

例) 自動車 > 自動車部品 > EV関連の電池 > セパレーター

■業種や発行株数、株価といったグループだけでなく
技術や開発といったテーマごとに分ける場合もある？

■ファンドマネージャーやアナリストは、セクターごとに業績の比較を行ったり、セクター内での株価の割高・割安を比較するなどして、投資の判断材料を探す。

■坂本さんはどんな分類をしている？

■ 17:27メインコーナー「しゃべくりカブカブ」～17:47(20分)

- ・先週の成長株のおさらい
- ・今はセクター投資か
 - ⇒セクター投資で攻めるべき理由
 - ⇒有望セクターと銘柄

1つの投資手法だけでもよいが、投資手法を掛け算するのもオススメ

昨年末・年初来
高値更新銘柄

テーマ投資

・EV、脱炭素、電線、DX……



好業績
20%成長銘柄

強烈IR

年初

EV

脱炭素

半導体

送電

金融・保険・不動産

年央

国土強靱化

脱炭素

経済再開

DX

メタバース・NFT

年末

DX

メタバース・NFT

半導体

?

■ 17:27メインコーナー「しゃべくりカブカブ」～17:47(20分)

- ・先週の成長株のおさらい
- ・今はセクター投資か
 - ⇒セクター投資で攻めるべき理由
 - ⇒有望セクターと銘柄

脱炭素・EV・半導体に関連するグローバルニッチトップ企業

【2020年グローバルニッチトップ企業】経済産業省が世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する優良な企業など113社を、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として選定。その中から上場企業で「増収増益」の企業だけを厳選。

	品目	銘柄	コード	世界シェア	割合	コメント
1	自動車部品	フコク（東1）	5185	1位	50%	【自動車】新車のワイパーのゴム部分。柱の自動車部品では半導体不足影響は限定的。ワイパーの販売数量が急回復。
2	工具	OSG（東1） →13日ストップ高	6136	1位	30%	【自動車・エネルギー】精密工具、ねじ切り工具。自動車関連産業はコロナウイルス前に近い水準まで回復したが、ここにきて半導体不足等により足踏み状態。航空機関連産業は、景気は底を打ったように見えるが、依然厳しい状況。一方で半導体やエネルギー関連などの産業は好調。産業や業種によって強弱が出ている状況だが、回復の鈍い業界も今後の回復が見込める。
3	工作機械	ソディック（東1）	6143	1位	—	【自動車・5G】電気による放電エネルギーを利用して金属加工を行う 工作機器：中国で自動車や電子部品、5G関連、半導体関連分野で引き続き堅調。日本及び欧米でも持ち直し。足元での受注は堅調に推移しているものの、半導体をはじめとする部材調達の逼迫や中国の電力不足による影響は懸念だが、今後の回復が期待できる。
4	化学	大阪ソーダ（東1）	4046	1位	—	【自動車・電子部品】機能化学品に強み。次世代リチウムイオン電池「半固体電池」を開発を発表 基礎化学品を主原料とする高付加価値製品を数多く持つ。コロナ再拡大による自動車生産に懸念を持ち、合成ゴムは下期10%弱減を見込む。（自動車生産がそこまで減少しない可能性も）。一方、電子材料向けやヘルスケアは好調。12月2日決算減収大幅増益かつ、最高益更新。収益認識会計基準適用によるため、実質は増収増益。
5	電気機器	エスペック（東1）	6859	1位	30%	【自動車・電子部品】環境試験器は自動車部品や電子部品の耐久性を調べる箱型の装置。庫内の温度や湿度を調整し、高温多湿や極寒といった過酷な状況を再現する。
6	電気機器	湖北工業（東2） →昨年12月IPO	6524	1位	50%	【5G・6G】海底ケーブル用光部品。世界の情報通信を担う海底ケーブルで25年間に亘って使用される、高信頼性の光デバイスを提供。アルミ電解コンデンサの電極部品であるリード端子の製造・販売を行う「リード端子事業」と、光ファイバ通信網用の光部品・デバイスの製造・販売を行う「光部品・デバイス事業」を行っている。セグメント区分もこの2事業からなる。日系メーカー向けを中心にリード端子を納入し、リード端子では世界シェア40%を持つ。海底ケーブル用の光デバイスでは米国のLumentumと市場を二分している。
7	プリント基板	イビデン（東1）	4062	1位	—	【電子部品】高機能ICパッケージ基板。グローバル需要旺盛。
8	バブル	旭有機材（東1）	4216	1位	20%	プラスチック製バルブ。製鉄や電解等の大型プラント、水族館や漁業施設、半導体製造設備などで活躍。プラスチック製バルブ市場における世界シェアは20%程度だが、バルブのプラスチック化率は未だ1%程度であり、存在すら知られていない国もあり、開拓余地あり。
9	半導体素材	東京応化工業（東1）	4186	1位	25%	【半導体】専業フォトレジスト企業。フォトレジスト：25% EUV用フォトレジスト：約46%。

脱炭素・EV・半導体に関連するグローバルニッチトップ企業

【2020年グローバルニッチトップ企業】経済産業省が世界市場のニッチ分野で勝ち抜いている企業や国際情勢の変化の中でサプライチェーン上の重要性を増している部素材等の事業を有する優良な企業など113社を、2020年版「グローバルニッチトップ企業100選」として選定。その中から上場企業で「増収増益」の企業だけを厳選。

	品目	銘柄	コード	世界シェア	割合	コメント
10	プリント基板	ユニオンツール	6278	1位	—	プリント配線板用超硬ドリル（電気製品等の基板の穴あけに使用）。プリント基板に縦の貫通穴をあけるための専用切削工具。切れ味の鋭さ、長寿命、細さの技術を持つ。業界で唯一自社開発した生産設備により、多様な顧客ニーズに対応することで高いシェアに繋げている。
11	自動車	太平洋工業	7250	1位	50%	自動車用タイヤバルブ。タイヤバルブはタイヤの空気を入れる注入口で、全ての自動車のタイヤに1つずつ装着されている。自動車用タイヤバルブで国内100%、グローバルでも50%超のトップシェアを持つ。
12	防犯	オプテックスグループ	6914	1位	30%	防犯用センサー。赤外線を用いた世界初の自動ドアセンサーを開発。技術とアイデアを融合させたセンサーで世界シェア30%を獲得
13	化学	第一稀元素化学工業	4082	1位	40%	ジルコニウム化合物。自動車排ガス浄化触媒用材料に使用され、触媒の浄化性能を向上させ、環境負荷低減に貢献
14	精密機械	日進工具	6157	1位	—	微細精密切削用エンドミル。エンドミルは工作機械に取り付けて金属等の加工を行う切削工具の一種で、同社では精密・微細加工に適した小径製品に特化。
15	機械	ナブテスコ	6268	1位	60%	精密減速機。産業用ロボット等の関節部分に使用される精密減速機。産業用ロボット等の関節部分に使用される精密減速機。世界であらゆる産業の自動化が急激に進展する中、産業用ロボットの需要も拡大を続けています。同社の精密減速機は、軽量・コンパクトながら高剛性・高精度・高耐久性の特長を備えている。
16	医療機器	朝日インテック	7747	1位	—	血管内治療用機器。医療機器。PTCAガイドワイヤーを手掛ける。カテーテル治療に使用する医療機器。

<4216> 旭有機材 東証1 時価総額 343億円 PER: 9.8倍 PBR: 0.68倍

増益
バルブ

旭有機材株式会社

	代表者 代表取締役社長 中野 賢津也	電話番号 03-5826-8820
	設立年 1945年	URL https://www.asahi-yukizai.co.jp/
	住所 東京都台東区上野 3-24-6 上野フロンティアタワー21階	従業員数 1528人
GNT 製品・サービスの名称と概要		
	製品名 ASAHIIV バルブ	
	概要 耐薬品性に優れた長寿命なプラスチック製バルブでトップシェア	

GNT 製品・サービスの内容

同社のプラスチック製バルブは耐薬品性に優れている点特徴ですが、金属製バルブと同じ形状では強度が不足するので、肉厚化や一部金属で補強するなどの独自の設計を行い、製品の優位性を一層高めています。また、材料の研究開発にも力を入れ、耐薬品性の向上を追求し続けています。ベースとなる原料は、耐薬品性を高めるほど成形がしづらくなるという特性を持つため、成形を補助する添加剤を配合するとともに、最適な成形条件をマニュアル化して、安定的に製品を提供しています。

同社の製品は製鉄や電解等の大型プラント、水族館や漁業施設、半導体製造設備などで活躍しており、これらの市場において、強い耐薬品性・耐腐食性、低金属溶出性、精密な流量制御を追求し、開発改良を重ね、トップシェアを獲得してきました。



同社製品の ASAHIIV バルブ

GNT 企業としての戦略・ビジネスモデル

同社のビジョンは、プラスチック製バルブのグローバル展開を加速させ、国内外で、圧倒的「耐食ソリューション・ナンバーワン企業」となることです。

もともとは、薬液ラインで金属バルブを使用していたユーザーからの、高濃度の薬液に耐えるバルブが欲しいという要望に応えるため、耐食性に優れた塩化ビニル樹脂を原料としたバルブを試作したのが始まりです。その後 1956 年に世界で初めてオールプラスチック製バルブの製造に成功して以来、軽い・錆びない・長寿命という特長を武器にラインナップを拡充し、ASAHIIV のブランド力を高めてきました。また 1963 年からグローバル展開を図り、現在では世界 50 か国以上に製品を供給するネットワークも構築しています。

製造に関しては、特に独自のノウハウを要する原料配合から成形工程までは日本国内（宮崎県延岡市）のみで行っています。またアメリカと中国では、一部、日本から輸入した成形部品を組立・試験・梱包するというノックダウン方式を取り入れることで、納期とコストの最適化を図っています。さらに大口径バルブや自動弁などの高付加価値品もラインナップに加え、お客様のニーズに対応し、シェアを獲得しています。

一方で、配管工事を請け負うエンジニアリング部門を有し、お客様の工場内の配管ラインに適した配管設計や工事、トラブル対応を長年行ってきました。これらの知見をビッグデータ化し、その後のバルブ開発に役立てています。

ASAHIIV バルブのプラスチック製バルブ市場における世界シェアは 20%程度と想定していますが、バルブのプラスチック化率は未だ 1%程度であり、その存在すら知られていない国もあります。そこで近年は、ドバイや南アフリカに拠点を設け、市場開拓を開始しました。これらの地域では、海水淡水化施設や鉱山で金属バルブが大量に使用されていますが、腐食による困り事が多く存在しています。

同社は、世界のお客様に安心・安全が届けられるよう、いち早く現地と対話し、配管ラインにマッチした製品開発と新たな市場創造を推進しています。

事業内容 グローバルニッチトップ企業
プラスチック製バルブ。製鉄や電解等の大型プラント、水族館や漁業施設、半導体製造設備などで活躍。プラスチック製バルブ市場における世界シェアは20%程度だが、バルブのプラスチック化率は未だ1%程度であり、存在すら知られていない国もあり、開拓余地あり。金属バルブは腐食による困りごとが多い。



☆馬淵視点☆
・次回決算 2022/01/31
・半導体製造設備向けで絶好調
・22年 営業利益 41%増の見通し

【通期】

決算期	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	経常利益 (前期比)	当期利益 (前期比)	EPS	BPS
Mar-17	42,029 1.20%	2,062 29.60%	1,944 27.50%	1,091 17.80%	57.0円	2,017.7円
Mar-18	50,174 19.40%	3,362 63.00%	3,402 75.00%	2,785 155.30%	145.4円	2,147.9円
Mar-19	56,083 11.80%	4,224 25.60%	4,390 29.00%	3,902 40.10%	203.7円	2,232.9円
Mar-20	56,581 0.90%	4,368 3.40%	4,395 0.10%	3,138 -19.60%	163.9円	2,289.9円
Mar-21	53,551 -5.40%	3,404 -22.10%	3,648 -17.00%	2,789 -11.10%	145.6円	2,436.7円
2022/03予	60,000 12.00%	4,800 41.00%	4,950 35.70%	3,400 21.90%	177.5円	—円

最高益
センサー

<6914> オプテックスグループ 東証1 時価総額 582億円 PER: 16.4倍 PBR: 1.57倍

オプテックス株式会社

	代表者 代表取締役社長 上村 透	電話番号 077-579-8100
	設立年 2017年	URL https://www.optex.co.jp/
	住所 滋賀県大津市雄琴 5-8-12	従業員数 291人
GNT 製品・サービスの名称と概要		
製品名	世界中の人々が安全・安心・快適に建物にアクセスできる自動ドアセンサー	
概要	赤外線を用いた世界初の自動ドアセンサーを開発。技術とアイデアを融合させたセンサーで世界シェア30%を獲得	

GNT 製品・サービスの内容

同社は、人の存在を認知し、自動ドアの開閉を判断する“目”の役割を行うセンサーとその周辺機器、関連サービスを提供しています。

1980年、足踏み式による開閉が主流だった自動ドア業界に世界初となる遠赤外線を用いた自動ドアセンサーを投入、以来、自動ドアセンサーのバイオニアとしてグローバルに事業を展開し、世界シェア30%を保有しています。自動ドアは、風雨、雪、小動物、光や電磁ノイズといった外部環境の影響を受けやすい場所に設置されます。そのため、過酷なフィールドテストや、世界各国の設置現場からフィードバックされた情報を蓄積・反映し、外乱要因による影響の低減を図り、センサー精度を向上させています。また、安全性の向上、建物の室内環境や省エネへの配慮、国や地域によって異なる法令や規格への対応など時代と共に変化する課題に就いていきます。

同社センサーは世界中の商業施設、オフィスビル、病院などで採用されています。



海外主力のスライドドア用自動ドアセンサー



歩行速度、方向を判別する自動ドアセンサー

GNT 企業としての戦略・ビジネスモデル

センシング技術をコア・コンピタンスとする同社は、マーケットを細分化し専門性を高める特定用途向けセンサーでトップシェアを狙うビジネスモデルを展開しています。そのために同社が重点を置いているポイントが3つあります。

まず、現場を理解することです。変化する社会状況や国・文化・設置環境・商習慣の違いにより、センサーに求められる性能は異なります。同社はお客様が実現したいことや使用環境を把握しながら固有の課題を発掘し、環境に適した解決策を導き出すことに注力しています。現場で蓄積したノウハウが他の追従を許さないポジションを確立しています。

次に、センシング技術を磨き、新技術と融合することです。同社は保有する多数のセンシング技術の特性を熟知し、用途に合うセンサーを選定しています。最新の自動ドアセンサーは赤外線と画像技術を組み合わせ、インテリジェント化を図っています。物理的変化を制御するアルゴリズムや要素技術を開発し、技術の融合、革新や進化を続けています。また、センサーの性能、機能、形状、コストや他機器との親和性、通信手段など実運用を熟慮して製品化しています。

3つ目がグローバル視点のモノづくりとネットワークを構築することです。すべての製品に絶対的な価値を与える信頼を提供するため、各国の法令や公的規格に準拠したグローバルスタンダードを導入しています。約30の国や地域に拠点を設け、市場を深く理解するための情報収集、営業・マーケティング活動や、現地代理店やパートナー企業と共に事業展開を図り、地域密着の体制を構築しています。海外売上高比率は約7割、販売先は80カ国以上に広がっています。

前回受賞時との相違点

前回選定の製品は「屋外向け侵入検知センサー」で、防犯・セキュリティ用途です。今回は「自動ドアセンサー」であり、商業店舗やビルにある自動ドアの開閉用途の製品とそれに伴うシステム及びサービスです。この2つは用途が異なるだけではなく、業界、流通顧客の種類が違うため、別の事業領域となります。

事業内容 グローバルニッチトップ企業

防犯用センサー。赤外線を用いた世界初の自動ドアセンサーを開発。技術とアイデアを融合させたセンサーで世界シェア30%を獲得。コロナで省人化が進み、センサー需要が拡大。



☆馬淵視点☆

- ・次回決算2022/02/14
- ・21年営業利益2.1倍に拡大
- ・最高益

欧州で防犯センサー回復。画像センサーは食品賞味期限ラベルを検査しフードロス削減に貢献。

【通期】

決算期	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	経常利益 (前期比)	当期利益 (前期比)	EPS	BPS
Dec-17	37,504 20.90%	4,885 62.00%	5,036 63.20%	3,386 87.20%	93.6円	806.4円
Dec-18	40,113 7.00%	4,989 2.10%	5,038 0.00%	3,775 11.50%	104.4円	891.4円
Dec-19	37,517 -6.50%	2,856 -42.80%	2,876 -42.90%	2,197 -41.80%	60.8円	890.6円
Dec-20	34,846 -7.10%	2,098 -26.50%	2,176 -24.30%	1,395 -36.50%	38.6円	896.1円
2021/12予	45,000 29.10%	4,500 114.50%	4,800 120.60%	3,350 140.10%	92.6円	—円

売上高や経常利益などが年々大きく増加今後もさらに増加していくと予測×2桁成長×技術

海底ケーブル

<6524> 湖北工業 東証2 ROE：31.04%

時価総額 754億円 PER：24.7倍 PBR：7.93倍

湖北工業株式会社

	代表者	代表取締役 石井 太	電話番号	0749-85-3211
	設立年	1959年	URL	https://www.kohokukogyo.co.jp/
	住所	滋賀県長浜市高月町高月 1623	従業員数	206人
	GNT 製品・サービスの名称と概要			
製品名		海底ケーブル用高信頼性光デバイス		
概要		世界の情報通信を担う海底ケーブルで25年間に亘って使用される、高信頼性の光デバイスを供給		

GNT 製品・サービスの内容

海底ケーブルは、場所によっては深さ 6,000m の海の底に引かれ、また運用期間は 25 年に及ぶなど、他には無い特徴のあるシステムです。そのため、海底ケーブルに用いられる光デバイスには、高い性能と共に高い信頼性が求められます。同社は光デバイスを、独自の材料技術に基づく素子作りから精密なデバイス組立までを他社にはない一貫生産で行い、国内・海外のユーザーに販売しています。とりわけ今回のグローバルニッチトップ企業 100 選の対象である、高品質と高信頼性を確立した光アイソレータ (*1) などの製品を海底ケーブルメーカーへ供給しています。同社の光デバイスは、ユーザーの長年の使用実績に裏打ちされた高品質と高信頼な製品であり、25 年以上に亘り安定継続して供給していることからユーザーから高い評価を得ています。



高信頼性光アイソレータ (*1)



高信頼性光フィルタ (*4) [参考]磁気光学結晶 (*2)

GNT 企業としての戦略・ビジネスモデル

同社は、長年培った独自の材料技術により、磁気光学結晶 (*2) の製造技術を開発しました。磁気光学結晶の応用商品である光アイソレータの製造販売に市場の初期から進出しました。同社は光アイソレータを大学等の研究機関や光通信機器メーカーへ供給し、光通信の発展期には供給数が大きく伸びました。また同社は、世界をつなぐ海底ケーブルの通信方式が電気から光へ移り変わるときに、通信事業者、光通信機器メーカーなどと共に長期間の信頼性試験を乗り越え、「高信頼性」光アイソレータを実現しました。実現した高信頼性光アイソレータは、1993 年に大陸と大陸の間をつなぐ海底ケーブルへ採用され、その後の高信頼性の光デバイスの礎を築きました。さらに同社は、高信頼性光アイソレータを日系ユーザーのみならず欧米の海外ユーザーへも拡販しました。製造拠点は国内だけではなく海外へ進出し、同社のグローバル展開は加速していきました。次に同社は、2000 年頃からの光通信方式に波長多重方式 (*3) が導入されるときに、高い性能の薄膜フィルタを用いた高信頼性光フィルタ (*4) を海底ケーブルメーカーと共に新たに実現しました。実現した新たな高信頼性光フィルタを用いた波長多重通信方式の海底ケーブルは、インターネットを代表とする情報通信の高速大容量化に結びつきました。その結果同社は、ユーザーである世界中の海底ケーブルメーカーのプラットフォーム作りに係わり、プラットフォームの鍵となる新たな光デバイスを開発し、高信頼性の光デバイスのラインナップ数と供給量を拡大し、世界市場シェアの過半を獲得するに至っています。

事業内容 グローバルニッチトップ企業

【5G・6G】海底ケーブル用光部品。世界の情報通信を担う海底ケーブルで25年間に亘って使用される、高信頼性の光デバイスを供給。アルミ電解コンデンサの電極部品であるリード端子の製造・販売を行う「リード端子事業」と、光ファイバ通信網用の光部品・デバイスの製造・販売を行う「光部品・デバイス事業」を行っている。セグメント区分もこの2事業からなる。日系メーカー向けを中心にリード端子を納入し、リード端子では世界シェア 40%を持つ。海底ケーブル用の光デバイスでは米国の Lumentum と市場を二分している。



(C) FISCO

☆馬淵視点☆
 ・21年12月のIPO 埋もれていない注目銘柄
 ・2桁成長
 ・海底ケーブルは日本の国策の1つ

決算期	売上高	(前期比)	営業利益	(前期比)	経常利益	(前期比)	当期利益	(前期比)	EPS	BPS
Dec-19	9,979	-%	1,480	-%	1,360	-%	524	-%	58.2円	477.4円
Dec-20	11,176	12.00%	2,577	74.10%	2,357	73.30%	1,562	198.10%	173.6円	640.8円
2021/12予	13,963	24.90%	3,640	41.30%	3,770	59.90%	2,661	70.40%	295.7円	-円